

「子どもの心の診療拠点病院の整備に関する有識者会議」開催要綱

1. 趣旨

様々な子どもの心の問題、児童虐待や発達障害に対応するため、平成20年度より、都道府県における拠点病院を中核とし、各医療機関や保健福祉機関等と連携した支援体制の構築を図るための事業（子どもの心の診療拠点病院機構推進事業）を実施するとともに、中央拠点病院を整備し、人材育成や都道府県拠点病院に対する技術的支援を行うこととしている。

そこで、当該事業を効果的に実施するため、雇用均等・児童家庭局母子保健課長が学識経験者・実務者等に参集を求め、中央拠点病院が実施する事業及び都道府県が実施する子どもの心の診療拠点病院機構推進事業に対する助言、評価を目的として、有識者会議を開催する。

2. 構成

- (1) 会議の構成員は別紙のとおりとする。
- (2) 会議に座長を置く。

3. 検討項目

- (1) 子どもの心の診療中央拠点病院が実施する事業に対する助言、評価
- (2) 都道府県が実施する子どもの心の診療拠点病院機構推進事業に対する助言、評価

4. 運営

- (1) 会議は原則公開とする。
- (2) 会議の庶務は、雇用均等・児童家庭局母子保健課において行う。

5. その他

この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、座長が母子保健課長と協議の上定める。

厚生労働省における

「子どもの心の診療」に関する取組

厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課

背 景

- ・ 「健やか親子21」における主要課題
子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減
- ・ 平成16年6月閣議決定された「少子化社会対策大綱」
心の健康づくり対策として、医師、保健師等を対象に、児童思春期における心の問題に対応できる専門家の養成研修を行い、精神保健福祉センター等において、児童思春期の専門相談の充実を図る
- ・ 平成16年12月24日少子化社会対策会議決定「子ども・子育て応援プラン」
今後5年間の目標として、「子どものこころの健康に関する研修を受けている小児科医、精神科医(子どもの診療に関わる医師)の割合100%」
- ・ 平成16年12月成立「発達障害者支援法」
発達障害児の健全育成を促進するための総合的な地域支援の推進
小児科医及び児童精神科医の需要が増大

発達障害への対応について(乳幼児健診)

発達障害者支援法(抄)

(平成17年法律第167号)

第5条 市町村は、母子保健法第12条及び第13条に規定する健康診査を行うに当たり、発達障害の早期発見に十分留意しなければならない。

3 市町村は、児童に発達障害の疑いがある場合には、適切に支援を行うため、当該児童についての継続的な相談を行うよう努めるとともに、必要に応じ、当該児童が早期に医学的又は心理学的判定を受けることができるよう、当該児童の保護者に対し、第14条第1項の発達障害者支援センター、第19条の規定により都道府県が確保した医療機関その他の機関を紹介し、又は助言を行うものとする。

子ども・子育て応援プラン

少子化社会対策大綱に基づく重点施策の
具体的実施計画について(抜粋)

平成16年12月24日 少子化社会対策会議決定

子どもの心の健康支援の推進

【今後5年間の目標】

子どもの心の健康に関する研修を受けている小児科医、精神科医(子どもの診療に関わる医師)の割合

…100%

【具体的施策】

子どもの心の問題に対応できる小児神経科、児童精神科等の医師、保健師等の養成を図るとともに、精神保健福祉センター、児童相談所等における専門相談の充実を図る。



「子どもの心の診療医」の養成に関する検討会(平成17年3月より)

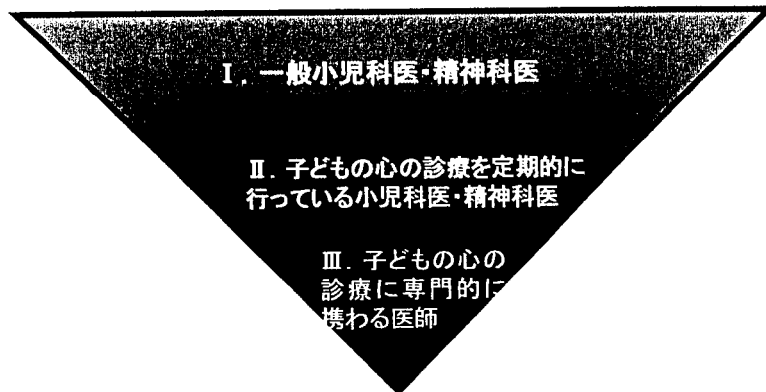
子どもの心の診療医の教育・養成のための検討

- ・ 「子どもの心の診療医の養成に関する検討会」の設置
 - 平成17年3月～平成19年3月(終了)
 - 座長:柳澤正義 日本子ども家庭総合研究所長
国立成育医療センター名誉総長
- ・ 関係学会や関係団体からの意見聴取
 - 日本小児科学会、日本小児科医会、日本精神神経学会をはじめ16の学会・関係団体



「子どもの心の診療医」の養成検討会における議論

- ・ 当面の目標
対応できる医師の層を厚くする



「子どもの心の診療医」の養成研修モデル



子どもの心の診療に関するテキスト

「子どもの心の診療医の養成に関する検討会」報告書を踏まえ、3種類のテキストを作成

- 子どもの心の診療テキスト
(社)日本小児科学会の協力を得て、同学会の全会員に配付
- 一般精神科医のための子どもの心の診療テキスト
(社)日本精神神経学会の協力を得て、同学会の全会員に配付
- 子どもの心の診療医の専門研修テキスト
子どもの心の診療を定期的に行っている小児科医・精神科医を対象

厚労省のHPIに掲載

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/kokoro-shinryoui.html>

子どもの心の診療に関連する研修

- 発達障害支援医学研修／発達障害早期総合支援研修
国立精神・神経センター精神保健研究所において開催
前者は医師、後者は医師及び保健師を対象
- 思春期精神保健対策専門研修会
平成13年度から、日本精神科病院協会に委託して実施
医師対象のコースと、コメディカルスタッフ対象のコースを開催
- 「子どもの心の診療医」研修会
平成19年度から、恩賜財団母子愛育会において開催
小児科医、精神科医等を対象
- 「発達障害児の早期発見と支援」研修会
自治体の保健師を対象に、平成20年度から恩賜財団母子愛育会において開催
- 子どもの心の診療に携わる専門的人材の育成セミナー
厚生労働科学研究費補助金事業(平成20年～)の一環として開催
子どもの心の診療に携わる若手医師を対象

平成20年度診療報酬改定における 子どもの心の対策について

○小児特定疾患カウンセリング料

1年を限度として月1回 → 2年を限度として月2回
710点 1回目500点 2回目400点

○通院・在宅精神療法(20歳未満加算 200点)

6ヶ月以内 → 1年以内

○児童・思春期精神科入院医学管理加算

350点(病棟単位) → 650点(治療室単位でも可)

厚生労働科学研究(子ども家庭総合研究)

- ・「子どもの心の診療に関する診療体制確保、専門的人材育成に関する研究」
(H17～19年)
(主任研究者:柳澤正義 恩賜財団母子愛育会子ども家庭総合研究所長)
- ・「子どもの心の診療に携わる専門的人材の育成に関する研究」(H20～)
(研究代表者:奥山真紀子 国立成育医療センターこころの診療部長)
- ・「軽度発達障害児の発見と対応システムおよびそのマニュアル開発に関する研究」
(主任研究者:小枝達也 鳥取大学地域学部教授) (H16～18年)
- ・「乳幼児健康診査における高機能広汎性発達障害の早期評価及び地域支援の
マニュアル開発に関する研究」(H16)
(主任研究者:神尾陽子 九州大学大学院(当時))
- ・「保健師・保育士による発達障害児への早期発見・対応システムの開発」
(主任研究者:高田哲 神戸大学医学部教授) (H17～19年)
- ・「児童虐待等の子どもの被害、及び子どもの問題行動の予防・介入・ケアに
関する研究」(H17～19年)
(主任研究者:奥山真紀子 国立成育医療センターこころの診療部長)

厚生労働科学研究(こころの健康科学研究)

- ・「広汎性発達障害・ADHDの原因解明と効果的発達支援・治療法の開発—分子遺伝・脳画像を
中心とするアプローチ—」(H17～19年)
(主任研究者:加藤進昌 昭和大学医学部教授)
- ・「発達障害(広汎性発達障害、ADHD、LD等)に係わる実態把握と効果的な発達支援手法の開
発に関する研究」(H17～19年)
(主任研究者:市川宏伸 東京都立梅ヶ丘病院院長)
- ・「思春期のひきこもりをもたらす精神科疾患の実態把握と精神医学的治療・援助システムの構築
に関する研究」(H19～)
(研究代表者:齊藤万比古 国立国際医療センター国府台病院第二病棟部長)
- ・「夜型社会における子どもの睡眠リズムによる心身発達の前方視的研究と介入法に関する研究」
(H19～)
(研究代表者:新小田春美 九州大学大学院医学研究院准教授)
- ・「発達障害者の新しい診断・治療法の開発に関する研究」(H19～)
(研究代表者:奥山真紀子 国立成育医療センターこころの診療部長)
- ・「1歳からの広汎性発達障害の出現とその発達の变化・地域ベースの横断的及び縦断的研究」
(H20～)
(研究代表者:神尾陽子 国立精神・神経センター精神保健研究所児童・思春期精神保健部長)

厚生労働科学研究(障害福祉総合研究)

- ・「ライフステージに応じた広汎性発達障害者に対する支援のあり方に関する研究:支援の有用性と適応の評価および臨床家のためのガイドライン作成」(H19～)
(研究代表者:神尾陽子 国立精神・神経センター精神保健研究所児童・思春期精神保健部部長)
- ・「発達障害児に対する有効な家族支援サービスの開発と普及の研究」(H19～)
(研究代表者:辻井正次 中京大学社会学部教授)
- ・「トゥレット症候群の治療や支援の実態の把握と普及啓発に関する研究」(H20～)
(研究代表者:金生由紀子 東京大学医学部特任准教授)
- ・「小児行動の二次元尺度化に基づく発達支援策の有効性定量評価に関する研究」(H20～)
(研究代表者:稲垣真澄 国立精神・神経センター精神保健研究所知的障害部部長)

子どもの心の診療拠点病院の必要性

「子どもの心の診療医」の養成に関する検討会報告書 (平成19年3月)

子どもの心の診療については、ひきこもりなどの適応不全をもたらす精神疾患、発達障害、虐待を受けた子どもへの医学的評価やケアなどへの対応が求められており、各都道府県において少なくとも1か所は、こうした乳幼児期から青年期までの子どもの心の診療及び研修を専門的に行える中心的な役割を果たす医療機関(子どもの育ちに配慮した入院治療を行う専門病棟をもつことが望ましい)が必要である。

日常的な外来診療から入院治療を含む高度な医療まで必要に応じて適切な診療が可能な子どもの心の診療体制を確立するとともに、保健、医療、福祉、教育など各分野の関連専門機関が連携して子どもの心の問題に取り組めるような連携体制を確立し、質の高い研修を行うためには、地域に高度に専門化された入院治療機能を持つ中核的な医療機関を整備し、診療システムを確立する必要がある。

子どもの心の診療拠点病院の必要性

発達障害者支援法 第19条1項

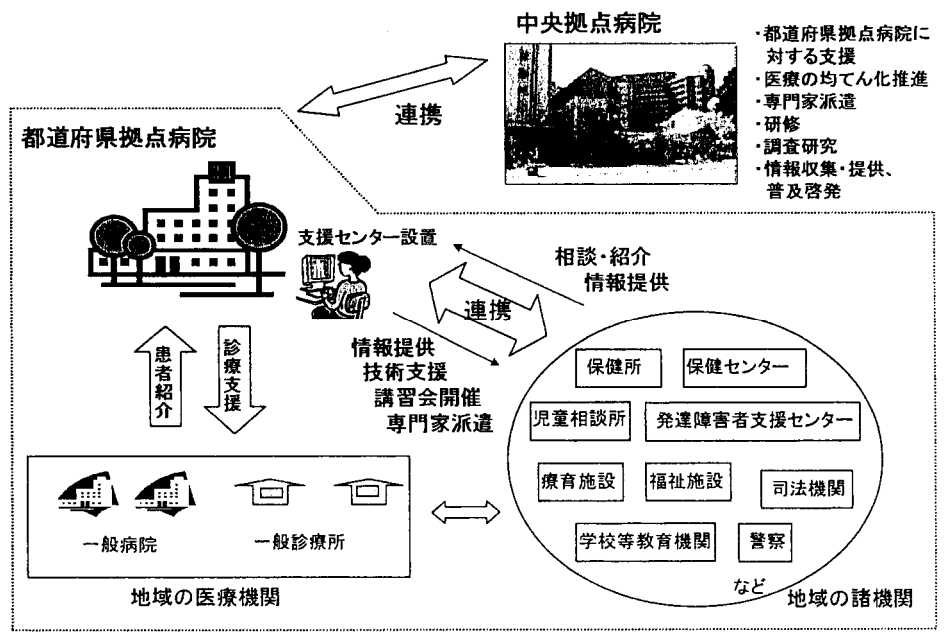
都道府県は、専門的に発達障害の診断及び発達支援を行うことができると認められる病院又は診療所を確保しなければならない。

児童虐待の防止等に関する法律 第4条第1項

(平成20年4月施行)

国及び地方公共団体は、児童虐待の予防及び早期発見、迅速かつ適切な児童虐待を受けた児童の保護及び自立の支援並びに児童虐待を行った保護者に対する親子の再統合の促進への配慮その他の児童虐待を受けた児童が良好な家庭的環境で生活するために必要な配慮をした適切な指導及び支援を行うため、関係省庁相互間その他関係機関及び民間団体の間の連携の強化、民間団体の支援、医療提供体制の整備その他児童虐待の防止のために必要な体制の整備に努めなければならない。

子どもの心の診療拠点病院ネットワークのイメージ



平成17-19年度厚生労働科学研究費補助金(子ども家庭総合研究事業)

子どもの心の診療に携わる 専門的人材の育成に関する研究

主任研究者 柳澤正義
(日本子ども家庭総合研究所)

わが国の子ども達の置かれている状況

社会の変化

- ・都市化
- ・核家族化
- ・高度情報化
- ・価値観・生活様式の多様化

- ・経済状態の向上
- ・環境衛生の向上
- ・医療保健福祉の向上
- ・国民皆保険

人口動態の変化

- ・低い出生率
- ・低い死亡率
- ・疾病構造の変化
- ・突然死、事故死の相対的増加
- ・少子高齢化
- ・人口減少社会

子ども達の生活の変化

- ・テレビ・ビデオ・コンピューターゲーム
- ・携帯電話・電子メール
- ・塾・習い事
- ・戸外遊びの減少
- ・年齢の異なる子ども達のグループ遊びの減少
- ・孤食

家庭・地域・学校の変化

- ・家庭の育児機能の低下
- ・地域の育児・教育機能の低下
- ・学校の教育機能の低下

- ・子ども達の心と体の危機
- ・親子の心の問題、虐待の増加

子どもの心に影響する多様な問題の増加・深刻化

- 不登校、ひきこもり、いじめ、学級崩壊、
家庭内暴力、拒食、自傷、自殺、薬物依存、
非行
- 気になる子どもの増加
発達障害(広汎性発達障害、注意欠陥／多動
性障害、学習障害)
- 子ども虐待の激増

子どもの心の診療を専門的に行うことのできる
医師や医療機関は限られている

厚生労働省

「子どもの心の診療医の養成に関する検討会(平成17・18年度)」
検討会報告書(平成19年3月)

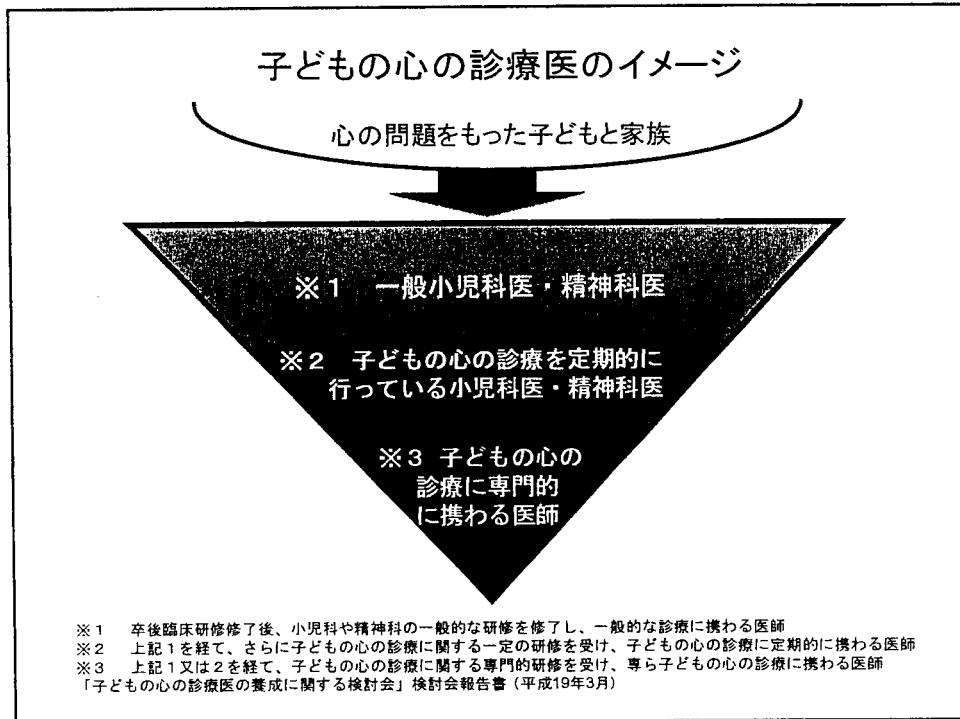
「子どもの心の診療医」

子どもの心の問題の診療に携わる小児科医および精神
科医をその診療の範囲や専門性の深さにかかわらず
「子どもの心の診療医」と通称

三つの類型に分類

- ①一般の小児科医・精神科医
- ②子どもの心の診療を定期的に行っている小児科医・精
神科医
- ③子どもの心の診療に専門的に携わる医師

それぞれの教育・研修体制、到達目標、テキスト作成の提案



平成17-19年度厚生労働科学研究費補助金(子ども家庭総合研究事業)
 「子どもの心の診療に関わる専門的人材の育成に関する研究」
 研究組織と分担研究課題

柳澤正義	日本子ども家庭総合研究所	研究の総括
牛島定信	東京女子大学文学部心理学科	精神科を基礎とした医師で子どもの心の診療を行う医師の育成に関する研究
奥山真紀子	国立成育医療センターこころの診療部	小児病院における子どもの心の診療を行う人材育成とチーム医療や連携に関する研究
齊藤万比古	国立精神・神経センター国府台病院	子どもの心の入院診療を行う専門的人材の育成に関する研究
庄司順一	日本子ども家庭総合研究所	子どもの心の診療に関わるコメディカルスタッフの育成に関する研究
星加明德	東京医科大学医学部小児科学	大学病院小児科における子どもの心の診療のあり方と人材育成に関する研究
保科 清	医療法人財団順和会山王病院	子どもの心の診療ができる一般小児科医の育成に関する研究
穂積 登	穂積クリニック	子どもの心の診療ができる一般精神科医の育成に関する研究
宮本信也	筑波大学大学院人間総合科学研究科	小児科と精神科の連携及びその有効な育成のあり方に関する研究
吉田敬子	九州大学病院精神神経科	大学病院精神科における子どもの心の診療のあり方と人材育成に関する研究
加藤明美	あいち小児保健医療総合センター看護科	子どもの心の診療に関わる看護職の育成に関する研究

子どもの心の診療に携わる専門的人材の育成に関する研究

- 【目的】 (1)子どもの心の診療の必要性の明確化
 (2)子どもの心の診療に関する望ましい医療システムの提案
 (3)子どもの心の診療を担う医師およびその他の医療者の人材育成に関する提案
 (4)子どもの心の診療に必要な機関(医療・保健・福祉・教育・警察・司法)連携あり方の提案

17年度研究実施内容

<実態調査>

- ① 病院小児科・精神科における子どもの心の診療の実態、教育・研修の実態、コメディカルスタッフの実態
- ② 専門医療施設における子どもの心の診療内容、研修体制の実態
- ③ 一般小児科医の研修前後における意識調査
- ④ 精神科診療所における子どもの受診に関する実態調査
- ⑤ 小児科と精神科の連携に関する実態調査
- ⑥ 保育園・学校を対象としたニーズ調査

18年度研究実施内容

<総合分析、カリキュラム・ガイドラインの提案及びテキストの作成>

- ① 前年度実施した調査結果の詳細分析
- ② 先駆的施設および専門施設への聞き取り調査および業務量調査
- ③ 収集した海外資料の比較分析
- ④ カリキュラム・ガイドラインの提案
- ⑤ 研修テキスト・視聴覚教材の作成

19年度研究実施計画

<ガイドライン・テキスト等の効果判定>

- ① モデル研修の実施
- ② 作成したガイドライン・テキスト等の効果判定
- ③ 効果判定結果に基づくガイドライン・テキスト等の修正
- ④ 保健・教育・福祉において必要とされる子どもの心の診療技術の把握のための聞き取り調査
- ⑤ 人材育成システムの提案

【目指す成果】

- (1)どのようなニーズがあるかの把握
- (2)現時点での医療提供はそれに対してどのような問題があるかの把握
- (4)どのような人材が必要とされているかの把握
- (5)どのような研修システムが必要とされているかの把握
- (6)子どもの心の診療を担う人材のトレーニングシステムの提案
- (7)それに必要なカリキュラム、ガイドライン及びテキスト等の作成

調査・研究内容

- 子どもの心の診療のニーズに関する実態調査
- 各種医療機関における子どもの心の診療体制、教育・研修体制の実態調査
- 「子どもの心の診療医」の養成・資質の向上に向けての提言
 - ・ 一般小児科医
 - ・ 一般精神科医
 - ・ 専門性を有する小児科医・精神科医
 - ・ 「子どもの心の診療専門医(仮称)」制度の構築
 - ・ 欧米における小児精神科医養成システム
- テキストの作成とモデル的研修の実施
- 看護・コメディカルの養成に関する提言

研究の歩み

平成17年度

- ・ 子どもの心の診療体制、教育・研修体制の多面的実態調査
- ・ 子どもの心の診療のニーズに関する実態調査

平成18年度

- ・ 実態調査データの詳細分析
- ・ 先駆的施設・高度専門施設での研修体制
- ・ 欧米での小児精神科医養成システム
- ・ 看護・コメディカルの教育・研修体制
- ・ 研修テキストの企画・編集

平成19年度

- ・ モデル的研修の実施とテキストの活用
- ・ 各レベルの専門的人材の短期・長期の教育・研修体制のあり方の提案
- ・ 「子どもの心の診療専門医(仮称)」制度の構築に向けて行程表、基礎的構造設計

子どもの心の診療に関するニーズ 全国保育園、小・中学校での実態調査

全国の保育園、公立小・中学校の各20%を無作為抽出

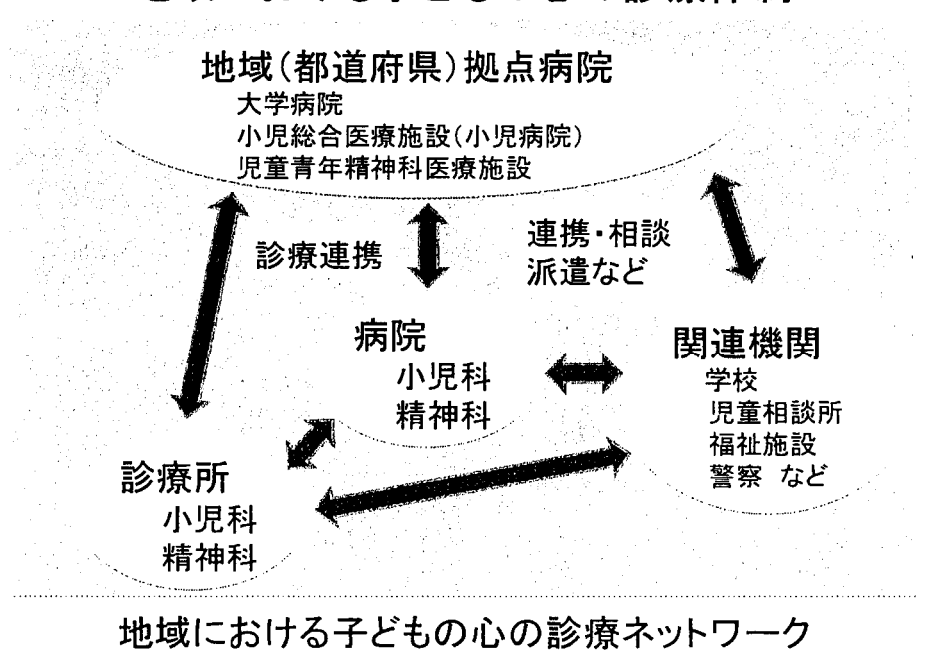
	対象数	回収率	子どもの精神的問題への対応経験	対応が必要となる精神的問題をもつ子どもの頻度	医療機関を受診させた子ども
保育園	4,200	44.8%	78.1%	4.57%	15.9%
小学校	4,495	54.7%	81.0%	2.96%	14.5%
中学校	2,018	57.9%	88.7%	4.08%	12.3%

平成17-19年度厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）
「子どもの心の診療に携わる専門的人材の育成に関する研究（主任研究者 柳澤正義）」

子どもの心の診療に携わる専門的人材の育成における課題と提案

- 卒前教育・卒後臨床研修・後期(専門)研修の充実
- 小児科医の生涯教育
- 開業精神科医の生涯教育
- 大学病院における子どもの心の診療部門の設置
- 小児総合医療施設における心の診療・研修体制の充実
- 児童青年精神科医療施設における研修体制の充実
- 小児科と精神科の連携
- コメディカル・スタッフの養成、特に現任研修の充実
- 専門性を有する看護師(認定看護師)の必要性

地域における子どもの心の診療体制



本研究班が関与したシンポジウム、 研修会および作成したテキスト類

平成17年度	・ 第94回日本小児精神神経学会(平成17年10月14・15日、名古屋)シンポジウム「子どもの心の専門家:理想の研修、私の研修」(共催)
平成18年度	・ 第102回日本精神神経学会(平成18年5月11、12、13日、福岡)シンポジウム「子どもの精神医療の現状と展望—専門医の養成を中心に」(共催) ・ 第47回日本児童青年精神医学会(平成18年10月18、19、20日、幕張)シンポジウム「子どもの心の専門家を育てるために」(共催) ・ 第53回日本小児保健学会(平成18年10月26、27、28日、甲府)シンポジウム「子どものメンタルヘルスを担う人材を育成する」(共催)
平成19年度	・ 第110回日本小児科学会学術集会(平成19年4月20、21、22日、京都)総合シンポジウム1「子どもの心の診療における小児科医の役割」(共催) ・ 第103回日本精神神経学会(平成19年5月17、18、19日)シンポジウム「子どもの心の診療医をいかに養成するか」(共催) ・ 第197回日本小児科学会新潟地方会(平成19年9月8日、新潟)特別講演(柳澤正義)「すべての小児科医は子どもの心の診療医」 ・ 第1回子どもの心の診療医専門研修会(平成19年3月17日、東京) ・ 第1回子どもの心の診療医研修会(平成19年9月23日、東京)(共催) ・ 第2回子どもの心の診療医専門研修会(平成20年1月13日、東京) ・ 子どもの心を支える地域ネットワークの集い(平成19年9月6日、東京、平成19年11月15日、埼玉、平成20年1月12日、滋賀)(共催)
テキスト類	・ テキスト「一般小児科医に望まれる子どもの心の診療」 ・ テキスト「一般精神科医のための子どもの心の診療基礎知識」 ・ 「子どもの心の診療医専門研修用テキスト」 ・ 「一般精神科医が子どもの心診療するときの参考テキスト」

本研究成果の意義

- ① 実態調査の結果に基づいて、異なるレベルの専門性を有する「子どもの心の診療医」及び看護・コメディカルの教育・研修システムが提案された。
- ② テキスト等の作成、モデル的研修等が実施された。
- ③ 成果は、行政・関係学会・団体・医療機関等の取組に反映される。
- ④ 心の問題を有する子ども達に適切な医療がより広く、より専門的に提供される。
- ⑤ 子ども心の問題への社会的関心に応えることのできる体制の構築は社会に安心感を与える。